

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

【資料2-4】

機関名：愛媛県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	愛媛県内6水域11市町で生活排水対策重点地域を指定	平成30年度および今年度の新たな指定の予定はありません。
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	該当なし	
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	宇和海海域公園サンゴ保護対策の支援	<p>本県では、足摺宇和海国立公園内の宇和海海域公園において、サンゴ類に被害を与えるシロレイシガイダマシ類の発生が確認され、その食害が問題となっており、駆除を継続実施しなければ被害が拡大するおそれがあることから、宇和海海中資源保護対策協議会が実施するオニヒトデやシロレイシガイダマシ類の駆除やモニタリングに要する経費を補助している。(県事業として平成3年度から継続、今年度も一件を補助)</p> <p>加えて、足摺宇和海国立公園及び周辺海域において、より効果的な保全活動や持続可能な利用促進に資するため、足摺宇和海保全連絡協議会(事務局：環境省土佐清水自然保護官事務所及び公益財団法人黒潮生物研究所)に参画し、最も保全上の脅威であったオニヒトデ等のサンゴ食害生物の駆除事業の進捗状況やサンゴの被度の現況等について関係者間で情報を共有している(今年度も2回参加)。</p> <p>なお、協議会では、県が補助する宇和海海中資源保護対策事業・環境省のマリンワーカー事業・水産庁の水産多面的機能発揮対策事業の限られた予算を効果的に充当できるよう、前年度迄の駆除実績等を踏まえた傾向を分析し、駆除エリアを分担するなど、関係者間の連携を強化することで、駆除やモニタリングを効率的に実施している。さらに、食害生物の駆除事業以外の海域保全上の課題(モニタリング精度の向上や定量的評価の算定手法等)、モニタリング方法の確立、教育利用等に関する検討も進めている。また、一部海域においては、オニヒトデの駆除数の低下が見られないことから、駆除作業の強化策や財源確保が課題となっている。</p> <p>(平成30年度実績：駆除回数10回(ダイバー数：述べ76名)、駆除数：オニヒトデ523個体(内酢酸注射504個体)、サンゴ食巻貝1,754個体)</p>
その他(※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。)		
1	該当なし	